



香川の野鳥ファイル

No. 4

ヒレンジャク・キレンジャク

レンジャク類は、野鳥とは思えない美しい色合い、「チリチリチリ…」という可愛らしい鳴き声から、バードウォッチャーにとっても人気があります。冬鳥として日本に渡来しますが、年によって渡来数の変動が多く、全く来ない年もあります。

今年は、そんなレンジャク類の、数年ぶりの「当たり年」でした。そこで今回は、2003年2～3月に観察された、レンジャク類（ヒレンジャク・キレンジャク）の紹介です。

レンジャク類

日本ではヒレンジャクとキレンジャクの2種が観察されるが、全国的にはキレンジャクの方が普通であるとともに、東日本ではキレンジャク、西日本ではヒレンジャクが多い傾向がある。香川県ではヒレンジャクの群の中に、数羽のキレンジャクが混じっていることが多い。

両種とも四国では、越冬または一時的な通過種とされている(※1)が、越冬数は少なく、数年おきの「当たり年」に数十～数百羽の群が各地に渡来する。ヤドリギやナナカマド、クロガネモチなどの実を好んで食するため、「当たり年」には市街地の街路樹や住宅地でも見られる。こうした群れは2～3月頃に突如渡来し、街路樹などの実を食いあさっては、また突然いなくなるが多い。

近年では1997年が当たり年だったが、この年はキレンジャクが多く、ヒレンジャクが少ない年であり、香川県では珍しい構成であった。なお、それ以前については95年、93年などに観察記録はあるものの、「当たり年」についての詳細は不明である(情報をお持ちの方はお知らせいただきたい)。1975(昭和41)年にも県庁付近で50羽余りが採餌していた(※3)の記述があり、この年も「当たり年」だった可能性がある。

なおレンジャク類は、突然バタバタと落鳥(死亡)することがある。近年では1997年2月の長野県(キレンジャク172羽、ヒレンジャク36羽が死亡)の事件(※2、追記①)を中心として各地で落鳥が続き、香川県でも少数の落鳥があった。原因は窒息とも農薬中毒とも言われているが、結論は出ていないようである。ちなみに今年も、坂出市で地上に降りたヒレンジャク、高松市で飛びたないキレンジャクが観察されている。こうした飛べないレンジャク類に出あった時は、基本的には「触らない・近づかない」が原則だが、道路上など、車に轢かれな場所へ移動してやる必要がある場合もあるので注意してほしい。

ヒレンジャク *Bombycilla japonica*

香川県では琴南町大川山山頂などで少数が越冬するほか、不定期な「当たり年」には群で渡来し、市街地などでも観察される。なおレンジャク類は羽衣から齢の識別が可能であり(追記②)、本年の高松市・坂出市の群れを注意して観察した結果、大部分が第1回冬羽(昨年生まれ)であった。

キレンジャク *Bombycilla garrulus*

香川県ではごく少数が渡来し、ヒレンジャクの群れに混じっていることが多い。しかしながら、1997年の「当たり年」の際はキレンジャクが多数渡来し、高松市幸町近辺で特によく観察された。今年の群については、ヒレンジャク約50羽に対して、キレンジャクは2～3羽のようであった。

月日	ヒレンジャク	キレンジャク	観 察 地	観 察 者
2.15	13+		高松市楠上町2丁目	曾根俊二
2.21	6		仲南町大字七箇	古市幸士
2.28	50+		高松市錦町NHK前	岩田篤志
3.1	4±		高松市錦町NHK前	曾根俊二
3.1	50±	1	高松市宮脇町	曾根俊二
3.2	70+	2+	坂出市西大浜北坂出グランドホテル東	岩田篤志、のり誉、明音羽
3.2	100+	1+	高松市宮脇町マルナカ前	安藤有紀
3.2	60+	3	高松市幸町香川大学経済学部正門前	三橋未来
3.4	40+		高松市常磐町観光通り	曾根俊二
3.13	30±	1+	高松市錦町NHK前	岩田篤志
3.23	1		高松市鬼無町衣掛衣懸池	城戸崇雄、孝子、柊平

※別人による同日・同場所での観察記録は省略しているため、すべての観察記録ではない。

ヒレンジャク

3.2、坂出市の車道上で飛べなくなっていたヒレンジャク（第1回冬羽）。避難させるため一時保護した。確認したところ特に外傷もなく、大量のフンをした後自力で飛翔して野外復帰した。（なお筆者（岩田）は日常的に野鳥を触る鳥類標識調査に従事しているため、野鳥を傷つけない扱いに慣れていることを付記しておく。一般の方が傷病鳥を扱う時には、十分な注意を払うとともに、すみやかに県自然保護室に連絡して指示に従っていただきたい。）



上左: 全身。初列風切の先端を見ると、内弁に白い羽縁がないことから、第1回冬羽（昨年生まれ）である。なお性別については、喉の黒斑の下縁や尾羽先端の斑の幅等で識別できるが、この個体ではそこまで確認できなかった。

上右: 右翼。初列風切先端の白斑は小さく、また外弁のみである。成鳥になるともっと幅広く、また内弁にも入る。

左: 尾羽。先端には赤い斑がある。

（2003.3.2. 所持：岩田篤志 撮影：岩田のり営）

キレンジャク



キレンジャク、ヒレンジャクを観察していると、反対車線のクロガネモチの木にキレンジャクがきました。面白い格好になって、尾羽を広げたところをパシャパシャと撮影させていただきました。

近くのスーパーに自転車で購入物に来ていた地元の人が、「今年はその鳥がよっけきとって迷惑や」と話しかけてきました。春になったら飛んでいくので、それまでは駐輪場所を変えたり、サドルにビニール袋をかぶせたりしている人もいますようです。美しい実と鳥と心で仲良く暮らしていきたいですね。

（2003.3.8 城戸崇雄氏撮影）

※この写真をカラーでご覧になりたい方は、インターネットで <http://www.nsgd.co.jp/takaokid/> をご参照ください。

〔追記〕

- ① レンジャク大量死については、日本野鳥の会軽井沢支部のホームページに詳しい。ただし数ヶ月以内に引越しのことなので、ご注意。 <http://www3.justnet.ne.jp/~hhas/WAXWING.HTM>
- ② レンジャク類の齢・性の識別は、「日本の野鳥 550 山野の鳥」（五百沢日丸、文一総合出版、2000）、「Identification Guide to European Passerines」（Lars Svensson, BTO, 1992）に詳しい。

-
- ※ 1 「日本鳥類目録第6版」、日本鳥学会、2000
 2 「レンジャク大量死の謎」林正敏、1997（「野鳥」日本野鳥の会、1997.6掲載）
 3 「香川の野鳥記」、山本正幸、1992